

お薬のしおり

No.156 (H27.2)

東京医科大学病院 薬剤部

スギ花粉症とお薬による治療について

今年もスギ花粉の飛散時期を迎え、花粉症の症状に悩んでいらっしゃる方も多いのではないのでしょうか。鼻アレルギー診療ガイドライン 2013によると、日本では 29.8%の人に花粉症が認められたという調査結果も報告されており、26.5%はスギ花粉症が認められました。つまり、花粉症患者の約90%がスギ花粉症であることが分かります。スギ花粉症の診断は、症状が出る時期や程度、アレルギー歴などについて医師が問診を行い、皮膚テストや血液検査等の結果から判断されます。症状としては、くしゃみや鼻水、目のかゆみ、喉のかゆみやイガイガ感、皮膚のかゆみ、頭がボーっとするなどがあります。これらの症状により、寝つきが悪くなったり、十分な睡眠が得られず日中に眠くなり、集中力や判断力が低下し、日常生活に影響を与える可能性があります。今回は、花粉症の治療法として今話題の舌下によるアレルギー免疫療法を中心にご紹介します。

現在、用いられているアレルギー症状を和らげるお薬には飲み薬、目薬、点鼻薬など多くの種類があり、患者さんの症状や強さに合わせて使い分けをします。その他に、「アレルギー免疫療法」という治療方法があります。アレルギー免疫療法とは、「減感作療法」とも呼ばれ、アレルギーの原因であるアレルギー（今回はスギ花粉）を少量から体内に入れることで、体をアレルギーに慣らし、アレルギー症状を和らげる治療法です。アレルギー症状のある疾患のうち、花粉症、アレルギー性鼻炎、気管支喘息などに対してこの治療法が行われています。原因となるアレルギーを治療に用いるため、アレルギーの確定診断が重要になります。

アレルギー免疫療法には、従来から行われていた皮下にアレルギーを注射する皮下免疫療法



と今話題の舌下に治療薬を投与する舌下免疫療法があります。皮下免疫療法は注射であるため痛みを伴い、さらに治療のはじめは徐々に増量するため、頻回に通院が必要となります。一方で、舌下免疫療法は、皮下免疫療法のような痛みがなく、自宅での服用が可能です。しかし、治療は最低2年間程度（通常3～5年間）、毎日継続する必要があり、服用量や服用方法、副作用に対する対応など、患者さんの理解が非常に重要な治療方法です。舌下免疫療法に用いられる薬剤は、昨年発売された「シダトレンスギ花粉舌下液」があります。

***対象・服用方法:** スギ花粉症と診断された12歳以上の患者さんが対象で、1日1回、少量から服用を始め、2週間は徐々に増量（増量期）し、その後は決まった量を数年にわたり継続（維持期：3年以上、定期的に受診）して服用します。治療薬を舌の下に滴下し、2分間保持した後に飲みこみ、その後5分間はうがいや飲食を控えます。

***お薬の作用・効果:** 舌の下から入ったアレルギー（スギ花粉）が体内で反応し、アレルギー反応を抑制する免疫反応が起こり、症状が抑えられると考えられています。長期にわたり、正しく治療が行われると、アレルギー症状を治したり、症状が完全に抑えられない場合でも症状を和らげ、アレルギー治療薬を減らすことが期待できます。

***副作用・注意点:** 副作用は、口内炎や舌の下の腫れなどの口の中の症状、のどや耳のかゆみ、頭痛などが挙げられます。重大な副作用としてはショックやアナフィラキシーなどの注意が必要です。アナフィラキシーとは、蕁麻疹・呼吸困難・下痢・低血圧などが起こり生命の危険を伴うもので、多くの場合、医薬品投与後30分以内で起こるため、初めて服用の際には、医師の監督のもとに十分な観察を行うこととされています。また、スギ花粉症の治療の場合、花粉が飛び始めてから開始するとアレルギーとの接触量が増えてしまうことから、花粉飛散（通常2月頃～）の3カ月前からの治療が必要であるため、少なくとも11月以前に治療開始することが望ましいです。

花粉症の症状を様々な対策を用いて和らげ、辛い時期を乗り越えましょう。お薬のことでご不明な点やご不安な点がある場合には医師または薬剤師までご相談ください。

